

KSE⇒香川衛星開発プロジェクトインタビュー

- ・インタビューを行った日：2007年1月20日（土）
- ・インタビューを行う人：峰松拓毅（Kansai Space Explorers B4）
- ・インタビューされた人：安達章（香川衛星開発プロジェクトM1）

今回は、香川衛星開発プロジェクトのインタビューを行いました。

香川衛星開発プロジェクトは、地域連携での衛星開発、及び衛星開発の基礎となる CanSat 開発を行っているプロジェクトです。

インタビューに答えてくれたのは、修士1年の安達さんです。

——プロジェクトについて簡単に紹介をお願いします。

プロジェクトは別の学科の研究室で動いているのですが、僕は違う学科から参加しているという形になっています。

プロジェクトは香川大学能見研究室を中心に進められており、その名を香川衛星開発プロジェクトといいます。

プロジェクトでは主に、テザー宇宙ロボット技術実証衛星 STARS の開発を中心としており、関連技術の蓄積を目的とした CanSat 開発も行っています。



図1：アメリカで行なわれた CanSat コンペ

もともと能見研究室はテザー宇宙ロボット(Tethered Space Robot)の研究を行っており、それを宇宙で実際に稼働させ実験しようというのがプロジェクトの宇宙開発の目的です。

——衛星開発について教えていただけますか？

衛星開発プロジェクトは2005年の2月から本格的に稼働し始め、2007年度中頃には FM 機体を完成させ、2008年の打ち上げを予定しています。

本年度は BBM 開発を終え、EM 開発に着手するところまでが目標です。

——完成間近なのですね？

だいたい形は見えてきましたが、まだまだツメが甘い段階ですね。

——香川大の衛星開発プロジェクトは地域ぐるみで進めているそうですね？

はい、そうです。形態としては研究室での閉じた活動にせず、学内外、広く地域一般からの参加を呼びかけています。

大学外の大人の人たちによる支援団体があったり、中高生もプロジェクトに参加していたり。具体的な衛星開発には携わるのは難しくても、宇宙を知ってもらおうという意味でいろいろなイベントを企画してきたりしました。



図 2：プロジェクト会議

——いろいろな人たちと交流出来て面白そうですね。

そうですね。僕らが気付かないところとか、知らない情報もいろいろもらったりしています。特に、支援団体（香川サット推進委員会）にはアマチュア無線家の方々が多く参加されていることもあり、アマチュア無線に関する知識をはじめ、地上局設備の構築など、大変お世話になっています。

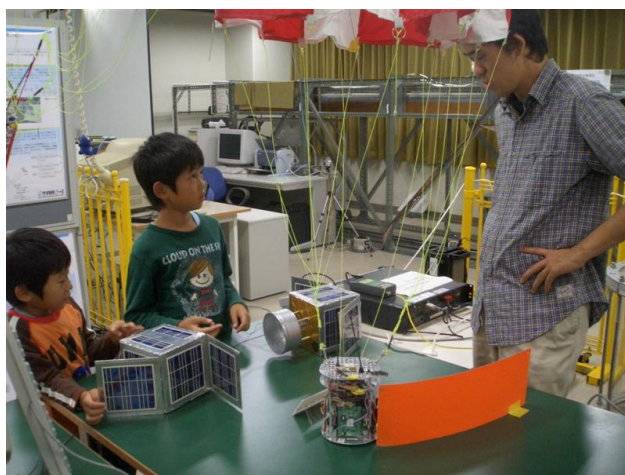


図 3：子供たちへの CanSat 説明

——プロジェクトに参加したきっかけは何でしたか？

そうですね、何か大きな目標に向かってチャレンジしたかった、これに尽きますね。僕は構想発表会に行った後で参加し始めましたが、その時のインパクトはかなり大きかったです。

自分達の手で作り上げた人工衛星が宇宙に打上げられ、自分達の手で運用ができる！というのは、普通の大学生にはできないことでしょう。今自分にチャレンジできることはとにかくいろいろと体験したかったのもありますし、そういった意味でプロジェクトに参加して自分の経験値が上がるんじゃないか、と強く感じましたね。

——実際にプロジェクトに参加してみて、期待通りでしたか？

そうですね、今の段階でも参加し始めた当時と比べて宇宙開発に限らず視野が広がった感じがしますし、もちろんいろいろな知識・人脈を持つことにつながりました。参加して生活が忙しくなったのは否めませんが、充実した大学生活を送ることができていますよ。

——充実した大学生活っていうのが良いですね

忙しいのに充実しているというのは、大学に入った当時には考えもしなかった毎日でしたね。

——衛星プロジェクトの今後について教えてもらえますか？

今後は **BBM** の試験結果などを踏まえて **EM** 開発のための基礎を固め、人工衛星をもっと現実的なものにしていく必要があります。今後の実験も多岐に渡りますが、ひとつひとつのステップを大切に、打ち上げまでのスケジュールを確実にこなしていくことが目標です。

それと同時に、プロジェクトをさらに広く呼びかけたりメンバーを募るなど、もっと多くの人達に知ってもらいたいと考えています。

香川大学としての衛星の製作は、今後も継続して行なっていく予定です。

——今後行なっていきたいプロジェクトとかあれば教えていただけますか？

プロジェクトは基本路線として人工衛星 **STARS** の開発が挙げられます。**CanSat** プロジェクトも技術継承やモノづくり教育の観点から、並行して進めていく予定となっています。

——プロジェクトをやっていて面白いと感じる時はどういう時ですか？

開発で実際にモノが期待通りに動いた時の感動は大きいですね。あと、分からなくなった時にみんなで会議として検討したりしながら、解決するというプロセスが面白いですね。プロジェクト内部に限らず、イベントでもみんなが一丸となって目標にあたるということ、つまり一致団結！みたいな瞬間が楽しいですよ。



図4：一致団結！

——プロジェクトの醍醐味ですね

ズバリそうですね！

——高校生の時にやりたかったことと、現在やっていることとを比べてどうですか？

まさか自分が宇宙開発のプロジェクトに携わっているなんて、想像もしていませんでしたね。

——宇宙には前から関わってみたいと思っていたのですか？

正直あまりそういう考えはなかったのですが、面白いものでちょっと宇宙について知りだすと、宇宙って奥が深いから、なんかチャレンジ精神みたいなものが沸き立ってくるような気がします。こういうのって興味が出てきたと言えるのかもかもしれませんね。

——ホントに宇宙って知れば知るほど知りたくなりますよね。そういう魅力って持っているんでしょうね？

それは確かにありますよね（笑）

——将来の夢について教えていただけますか？

卒業するまでの目標は、人工衛星 STARS を打上げられるまでの形にして完成させること！もちろん、完成させるだけでなくプロジェクトの運営体制を整えたり、組織として完成された形に仕上げるのが目標でもあります。卒業してからは、宇宙関係に就くかどうかはまだ分かりませんが、プロジェクトで培った経験を活かせるような場所で活躍したいというのがありますね。

——プロジェクトを行なったという経験は大きいですよね？

そうですね、大学だからできるということもありますし、プロジェクトに参加しないと得られないものっていうのもあると思います。だからプロジェクトには感謝していますし、参加して良かったといつも思いますね。

もともと大学生って浮かれているイメージがあったので、目標もなく大学生活を送るだけの人って結構いたりすると思うんですけど、早いうちから研究やサークルでも、もちろんプロジェクトのようなものでも、大学生活の中で目標とできることを見つけるということは、いかに大学生活をエンジョイできるかということにもつながると思うんですよね。

——それでは、1日の生活について教えてもらえますか？

プロジェクトには毎日関わってはいますが、僕の場合は研究室が違うのでちょっと特殊ですね。基本的に10時頃に出てきて、自分の研究室で過ごしたり、衛星開発のプロジェクトルームに行ったり来たりしながら細かな雑用や事務作業、そして自分の研究を進めたりします。夕食を済ませた後は基本的にプロジェクトの活動に充てていて、帰るのが12時を超えることがたいていですね。

——会議・打ち合わせはどの位の頻度で行っていますか？

基本的にはプロジェクトの定例会議を毎週水曜日の夜に行っています。イベント前などの多忙時は、ほとんど時間帯は関係なく随時行うという形ですね。

——それでは、現在のプロジェクトの満足度について教えてもらえますか？

80%！

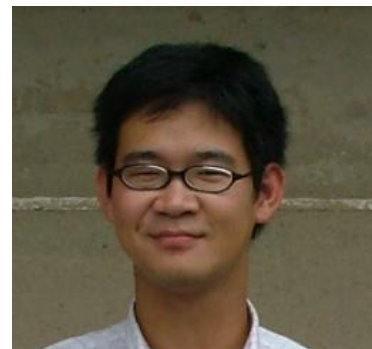
得られた経験はとても大きいものがありますが、経験するだけでなく実際に実績を残すという意味では我々はまだまだ努力が必要ですし、まだまだ組織としての完成度は高くないと感じています。

満足度という意味では、自分が満足するだけでなくプロジェクト全体が満足に動いているか、というのを大切にしていきたいですね。

——最後に、このインタビュー記事を見てくれる人にメッセージをお願いします

我々はテザー宇宙ロボット技術実証衛星 STARS の開発を中心として、CanSat 開発、関連イベントの開催など、四国初、香川発の人工衛星を宇宙に送り出すべく活動しています！しかしながらまだまだ未熟な部分も多く、努力しなければならない部分も多くありますが、プロジェクト実現のため奮闘する我らをなにとぞ応援のほど宜しくお願いいたします！

お忙しいところインタビューに協力していただき、どうもありがとうございました！



インタビュアー：峰松 拓毅